

3 桐生新町重伝建地区



2 絹燃記念館



1 白瀧神社



6 織物記念館



5 織物参考館「紫」

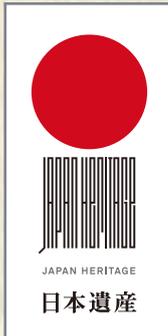


4 後藤織物



おれのかかあは天下ー 織しよくと都桐生の日本遺産

問い合わせ 観光交流課 日本遺産活用室 (☎内線 346・347)



日本遺産 知っていますか？

日本各地には、寺社仏閣や遺跡、祭りや食文化などの文化的遺産が点々と存在しています。

日本遺産とは、それらを地域に根差したストーリーで結び、日本各地の魅力的な歴史や風習をより深く知ってもらうため、平成27年度から文化庁が認定を始めたものです。現在、全国で104件のストーリーが認定されています。そして、その2件目のストーリーとして、「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」が認定されています。

り、日本全国の多様な物語を知ることができます。

かかあ天下ー ーぐんまの絹物語ー

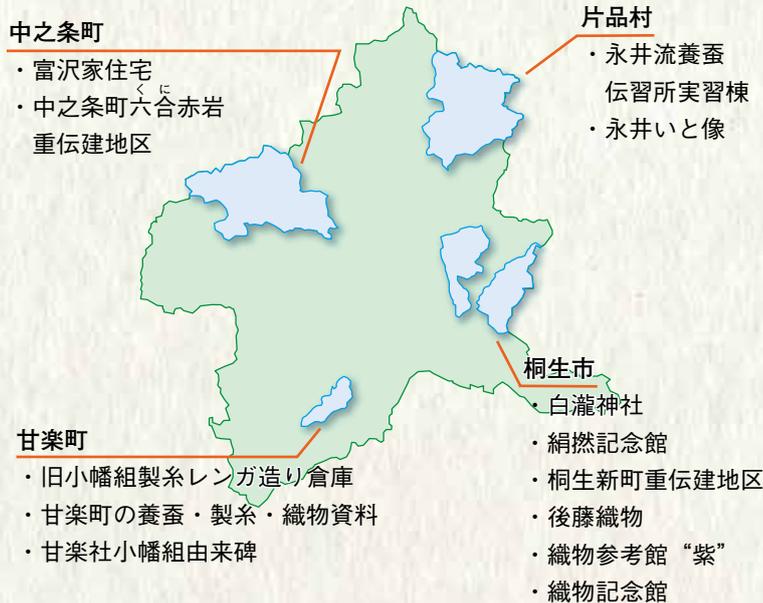
絹産業の盛んな上州では、古くから女性が養蚕・製糸・織物で家計を支え、明治以降になると製糸工女や織り手としてますます活躍しました。男性たちはこれを「おれのかかあは天下ー」と言い、これが「かかあ天下ー」として上州名物となり、働きの上州女性像の代名詞となりました。

桐生市には、この13件の中の6件の文化財があります。上毛かるたに「桐生は日本の機どころ」とうたわれるとおり、主に織物の歴史と文化を伝える重要な役割を担っています。

桐生市の構成文化財

- 1 白瀧神社**
京都から織物技術を伝えたといわれる白瀧姫をまつる神社です。多くの織り手が織物技術の上達を願って参拝しました。
- 2 絹燃記念館**
明治から戦前まで稼働した大規模撚糸工場の現存する事務所棟です。学校が設置され多くの女工が働きながら教育の機会を得ました。現在は展示施設となっています。
- 3 桐生新町重伝建地区**
桐生織物の中心地として経

日本遺産「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」 構成文化財一覧



平成24年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、現在も商家や織物工場、寄宿舎が残っています。桐生で働いた女工の暮らしを思わせませ

4 後藤織物
明治初期から昭和にかけての建物が現存する織物工場です。熟練の女性従業員が働き、桐生の絹産業の発展に貢献しました。

5 織物参考館「紫」
高級織物であるお召しの技術を今に伝え、現在も操業しながら、織物資料館として染色や手織りの説明、実演が体験できます。

6 織物記念館
昭和初期に桐生織物向上のため設立された桐生織物同業組合の事務所です。かつて女性従業員が電話交換手やタイプライターとして働きました。現在は、織物資料展示や販売を行っています。

日本遺産の楽しみ方

1. 知って楽しむ

日本遺産は、ストーリーを知って楽しんでもらうためのものです。思い出の土地にあるストーリーを調べたり、食べ物や祭り、海洋文化、産業遺産などのテーマを決めて、全国のストーリー（日本遺産）を探したりしてみてはいかがでしょうか。

「日本遺産ポータルサイト」では美しい写真や動画とともに全国のストーリーを紹介しているので、自宅にいてもさまざまな楽しみ方ができます。



日本遺産
ポータルサイト

2. 巡って楽しむ



ロゴマーク

日本遺産は、ストーリーを構成する文化的遺産を実際に巡って、歴史や文化に触れることができます。また、祭りや草花が生む風景のように、季節によって魅力が増すストーリーもあります。

日本遺産を巡る際には、ぜひロゴマークを目印にしてください。

古くから絹織物が盛んな桐生市では、「西の西陣 東の桐生」といわれるほどの織物産地で、隆盛を極めました。その隆盛を支えたのが「かかあ」の活躍でした。

そうした「かかあ」たちの活躍のストーリーが文化庁の日本遺産の認定となりました。

その日本遺産が桐生では何と6か所も存在します。このことは大変価値のあることで、桐生がいかに優れた織物のまちであるかを物語っています。

しかし、市民の皆様には、まだ完全に日本遺産が周知されておりません。この貴重な財産を皆で共有し、桐生のまちづくりのために、観光事業の推進のために、活用していただくことを目的に、市役所内に「日本遺産活用室」を新たに設けました。

まずは、市民の皆様がこの日本遺産を知っていただき、誇りと愛着をもって多くの人に伝えていただく「語り人」になってほしいと思います。

そのための仕掛けを今後行ってまいりたいと思っておりますので、その際は皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

桐生市長 荒木 恵司